

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900079	事業の開始年月日	平成21年3月1日
		指定年月日	平成21年3月1日
法人名	有限会社ばすてる		
事業所名	どんぐり庵さんだ		
所在地	(243-0211) 神奈川県厚木市三田742-27		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年9月27日	評価結果 市町村受理日	平成29年10月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで暮らすことになってもその人らしい生活を送ることができるようにこころがけている。近所の徒歩圏内にスーパーや衣料品店、レストランがあり、日々の買物や行事の際に必ず利用者様と一緒に外出するよう心がけ、積極的に活用している。日常における料理や洗濯、掃除等に関しては職員のみで決して行わず、利用者様個人の力に応じた内容で一緒に行ない、たとえ少しの時間でも関わりをもち、また役割を持って生活して頂けるよう努めている。また、入居者様が健康に暮らせるように、かかりつけ医や看護師に協力してもらい、日々の健康面のチェックや、何か変化があった時は即座に対応できるよう日々の情報交換や、入居者様の観察に力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年10月16日	評価機関 評価決定日	平成29年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇利用者の能力や意思を尊重した支援

「あなたのできることを、わかることを探していきます～(抜粋)」の理念に沿い、職員は「日常生活のお手伝い」の視点に立ち、個々の利用者にとって暮らしやすい環境整備に努めている。具体的には、利用者の能力や意思を尊重して調理、掃除、ゴミ出しなどの家事を職員と一緒にやり、その人らしい生活を支援している。

◇充実した職員教育と研修システム

①「入職時の研修スケジュール」に基づき、介護職経験者は14日間、未経験者は20日間のOJT(現任訓練)を行っている。職員は入職3か月後に、評価票を使って実践結果を自己評価したのち管理者と面談している。

②年間の研修計画を作成して、毎月のミーティング時に「職業倫理」「プライバシー保護」「身体拘束廃止」「感染症予防」「災害時対応」などの内部研修を行っている。感染症流行時などには、必要に応じて内容を変更している。

【事業所が工夫している点】

◇三食のタイム別に、全利用者の薬を専用ファイルにて準備し、食事タイムにファイル(例：朝用ファイル)をリビングの指定棚に置き、全員が服薬し終わるまで撤去しないことにより、飲み忘れ防止をしている。

◇毎日、職員が記入する利用者のバイタルの結果やその日の様子「ご様子お知らせシート」を、月ごとに家族に送り情報を共有し連携を図っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	w	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関ホールに掲示しており、いつでも把握出来るようになっている。入職時またはミーティングなどでその都度確認している。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念「あなたのできることを探していきます～」を玄関ホールに掲示し、入職時やミーティングで共有し確認している。 ・理念に沿い、調理や掃除、買い物を利用者とともに行うなど、能力や思いを尊重して支援している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入している。行事やイベントに参加したり、回覧板を通じ地域の情報を共有している。又、2ヶ月に1度の運営推進会議を開催し情報交換を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会へ加入し、地域の夏祭りや盆踊りなど、自治会の行事に利用者や職員が参加し交流している。 ・職員体制にゆとりがなく、地域の清掃や防災訓練には、ここ数年参加できていない。 	事業所行事に地域住民を招くなど、地域に事業所を知ってもらい交流を深めるために更なる取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や見学に来られた方々には、その都度説明を行っている。地域の行事に参加し、認知症の方の理解や支援の方法などの協力関係を築くように取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており施設の近況報告や入居者の生活状況を伝えている。地域の方々からも、情報等を頂きサービス向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回、地域包括支援センター職員や自治会役員が参加して開催し、事業所の活動状況や地域の状況を情報交換している。 ・地域のインフルエンザ流行の情報を得て、事業所内での対処の参考にするなど運営に活かしている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には、運営推進会議開催のお知らせやスケジュールは通達し、会議内容を報告している。議事録また、施設内で起きた事故により病院へ通院した場合など報告基準に沿って報告書を提出している。	<ul style="list-style-type: none"> ・市担当者へ運営推進会議開催を伝え、議事録を送っている。同会議には地域包括支援センター職員が参加している。 ・申請書や報告書の持参・送付や、電話での事務手続きの確認・問い合わせの際に情報交換している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づきケアをしている。入職時の説明があり、いつでも確認出来る様にしている。職員全体が理解をして対応にあたっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入職時研修や内部研修で対象となる行為など身体拘束について学習し、日常的に確認し合っている。 ・急な立ち上がりの危険には、座席の場所など環境を見直し、注意深い見守りで転倒防止に努めている。 ・玄関は夜間のみ施錠している。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で話し合いを設けたり、注意を払っている。言葉による拘束も虐待にあたるということを定期的に確認した方が良い。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の「成年後見制度研修」の出席、事業所での発表会を行ったことがあるが、前年度、今年度は活動を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書など契約時に必要なことは全て口頭でも説明している。料金など改定時は重要事項説明書を作り直し説明、署名をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話対応、面会時に意見を聞く場に活かしている。また、契約時などに市、国保連などの相談機関を紹介している。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者や職員は、家族の来訪時や電話連絡の際に積極的に話しかけ、意見を聞いている。意見箱を玄関に設置しているが利用はない。 ・事業所基本情報についての電話問い合わせに答えられない職員がいるとの指摘から、想定問答集を作成し、電話の傍に置くこととした。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議やミーティングで現状把握に努めている。改善したいこと、課題などに対し徐々に取組みを始めているところである。	・毎月のミーティングのほか、日常的にも管理者は職員意見の聞き取りに努めている。職員体制が整わなかったため、新人以外の個別面談はここ数年行っていない。 ・検食記録に記録漏れの懸念があるとの職員の意見から、担当者を決めることとした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前回外部評価より職員の体制はやや落ち着いたため、安定した状態、向上心を持てる取組みをしたい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はミーティングを利用し行うよう実践している。外部研修の案内をするが参加者が少ないため今後の課題として取り組みたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の勉強会に参加し、他事業者ともコミュニケーションをとるよう心掛けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会をし、本人と家族から聞き取りや観察をしている。また、入居後もご本人が好きなおこと等を探したり、ご本人の不安なおことをお聞きし慣れていただくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で、ご家族様の御意向を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を通じて、ご本人にとってより良いサービスを提供できるよう、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、ご家族様に協力していただきたいことに関して説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介護をするのではなく、毎日の生活で知らないことを教えて頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日々の変化や体調など相談や伝えるようにしている。また、ご家族様からも話があれば応じている。施設内で用意できないものについては、ご家族様に相談している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加をしたり、ご本人の要望を聞き馴染みの人や場との関係を持てるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・知人面会の際には、お茶を出し寛いで過ごせるよう配慮している。 ・年賀状作成や手紙のやり取りを支援し、事務所の電話の使用の要望にも応じている。 ・利用者の要望に応じて、墓参や馴染みの菓子店に同行している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士、誰と誰が良好な関係なのか等を把握し、フロア内の席などを調整している。孤立気味のご入居者様がいれば、職員が介入し輪を広げていく工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、入院時に面会に行ったりしている。ご家族様より依頼があれば相談には応じている。また、退居後のご家族から衣類などの寄付をいただくこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話可能な方には、話をしながら希望を聞いたりしている。入居時、ご家族とお会い出来れば、思いや意向を確認しプランに組み入れている。	・日常的に意識して利用者の意向を確認している。意思表示困難な利用者には、態度や表情、生活歴などから推察し、意向把握に努めている。 ・聞き取りや観察から得た利用者の意向は、申し送りや日誌、ミーティングで検討し情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、生活歴や暮らし方を聞き担当ケアマネージャーよりサービス利用の情報提供をうけ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や申し送りで、心身の状態を把握している。また、身体に異常や違和感があるご入居者様の訴えがある際には看護師に連絡を行ない指示を頂き対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等を利用しモニタリングを行い、生活状況とプランのすり合わせをし検討、介護計画作成を行っている。	・個々の利用者について、毎月モニタリングし、カンファレンスや医療関係者、家族の意見を参考に原則3か月ごとに介護計画を見直して、家族の同意を得ている。 ・介護計画は、状況の変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りで個々の体調、活動などについて報告している。それを元に注意することを共有している。課題や取組み、評価を話し合いケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様にとって必要なサービスであれば、ミーティングで検討をし取り組んでいる。具体的に福祉用具の紹介、検討をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は周辺のスーパー、衣類店を利用している。必ず、入居者様も一緒に外出している。お祭りなどの行事は全員参加できる計画を立てている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が主治医になることが多いが、入居前からのかかりつけ医に継続している入居者もいる。	・かかりつけ医の選択は、利用者によるが、ほとんどが協力医療機関を選んでいる。協力医と24時間の連携体制をとり、月4回の訪問診療と訪問看護を受けている。 ・協力医以外の受診には家族が同行し、受診結果は家族から情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異変に気付いた時は、医療スタッフに相談し、指示を仰ぎ受診となった時はご家族様に受診の経緯と受診後の報告を入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院するケースが多いため、情報交換はできている。他病院に入院のときも医療スタッフや相談員のとカンファレンスに参加することもある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したご入居者様に対して施設としてできる対応をご家族に説明を行ない共有することができている。ご本人の意見をふまえ、家族、医療スタッフが終末期のケアについて話し合っている。	・入居時家族に「重度化における対応指針と同意書」を渡して、説明し了解を得ている。 ・必要に応じ医師、家族と相談し、意向に沿って支援している。看護師による職員への説明会を開き、看取り計画を立て、医療関係者や家族と連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現職員は、外部の研修には参加できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしている。そのうち1回は消防署の指導を受けている。訓練を通して、知識や情報を職員同士話し合い今後の避難訓練に役立てている。	・年2回、利用者とともに避難訓練を行っている。うち1回は消防署員が立ち会い、指導を受けている。 ・訓練後のミーティングで、注意点などを検討・確認している。 ・3日分の水や缶詰類などの食品を、1階のリネン室に備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを確保している。周囲に聞かれたくない話は居室で対応している。排泄や入浴は誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけに気を付け必ずドアを閉めて介助している。	・人格尊重、プライバシー保護に関して新人研修資料で学び、年間研修計画にも取り入れている。 ・ミーティングでテーマにし、接遇の原点を忘れないようにしている。 ・人格を損ねる職員の言動を目にしたときは注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が日々のご入居者様に対しての声かけなどを通して、ご入居者様の悩みや希望の話をしやすい環境作りに心掛けている。ご入居者様が、話があれば意思を尊重できるように話を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご入居者様の希望にそえるようにしている。すぐに実行できることであれば一緒に行えるよう支援している。しかし、外出希望はすぐに対応できないことが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや化粧などは、自らできる方は見守りをし自ら難しい方には職員がお手伝いしている。おしゃれは、体調や気温に合わせて入居者様と選んでいただいたり意見を聞き支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事作り、片付けなど可能な限り入居者様と一緒にしている。会話の中で好みを聞いたり買い物と一緒にいった時には好きな物を選んで頂いている。	・利用者は食材の皮むき、もやしのひげ取り、炒め、食後の片づけなど可能な仕事に参加している。 ・行事食、お楽しみ弁当など、行事や季節の料理を提供している。 ・利用者の好みを、メニューや誕生日の夕食などに反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は、個々の目標水分量を目安に、熱中症予防も頭において行っている。確認方法は、時間毎に摂取量を記録し昼、夕方、夜間に不足がないか量を見ている。食事の個々の体調を考え、内容、形態、量を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行い歯磨きを行っている。ご入居者様の状態に応じて、口腔ケア用のガーゼ等も使用している。義歯使用者においては、夕食後に外して頂き義歯洗浄剤で消毒を行い清潔を保持出来るように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁を減らすため、排泄記録にトイレに行った時間を記録し過去の排泄記録を見たり、ご入居者様の発言や行動をみて声かけを行ない、トイレへ誘導させていただいている。	・排泄記録を参考にして、排泄のタイミングを予想し促している。その結果、排泄失敗の回数が減りつつある利用者がいる。 ・おむつの着用者は、夜間1人のみである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、乳酸菌や食物繊維を含む食事提供を工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2～3回の入浴予定は組んでいるが、その時のご入居者様の体調や気分により時間帯を変えたり、翌日に変更することがある。	・基本は週2～3回とし、本人希望や体調で回数、時間帯を変えている。 ・本人の状況に応じて、機械浴、シャワー浴、足浴をしている。 ・入浴剤、季節のゆず湯、菖蒲湯を提供し、入浴中は職員との会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備に心がけ居室の寝具など洗濯、掃除をし清潔に保てるように心掛けている。また、夜間ご入居者様が安眠や休息ができるように空調、温度管理に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様のお薬は職員が安全な場所に保管、管理している。服薬の際にダブルチェックをし服薬ミスのないようにしている。また、薬の変更があった場合、職員全員が内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや、洗濯干し等安全を確保した上でやって頂いている。飲み物は、日本茶、コーヒー等、個々の好みに合わせている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や体力に合わせ、買い物、ドライブ、外気浴等を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な利用者は、食料品や日用品の買い物や、回覧板届け、ゴミ出しなどに気軽に参加し、散歩、外気浴を楽しんでいる。 ・紅葉時期の宮ヶ瀬ダムなど季節に応じた遠出や、盆踊りなど地域行事への参加を支援している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人所有の金銭は、お小遣いという形で施設で管理している。欲しい物は、お小遣いから出して購入している。お小遣い帳をつけ、明細が分かるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状においては、自ら電話をしたり手紙を書いたりされている。年賀状においては、全入居者がご家族にだしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにその時節の花等を飾ったりしている。フロア内にはソファがありご入居者様が、心地よい空間を提供出来るように心がけている。不快や混乱を招くものはおおむねないが、季節感を採りいれているものはない。	・適度な明るさを保ち、落ち着いた雰囲気の中で利用者は思い思いに寛いでいる。温湿度計のそばに、夏、冬の目標値を掲示し、利用者の様子も観察しながら調整している。 ・リビングに季節感を感じる絵などを飾り、玄関に花壇を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの個人の座席は、ある程度決まっており、過ごしていただいている。個々の関係を考慮して、その都度、席替えや配置替えを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の私物に関しては、ご本人やご家族にお任せし、ご本人の慣れ親しんだ品やご家族の写真を置いている。ご家族とご本人と相談しながら行っている。	・家族の写真、仏壇、使い慣れた家具や寝具、テレビなどを持ち込み、心地良く過ごせる部屋にしている。 ・予定表に従って布団を干し、可能な利用者は職員とともに部屋の掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りのひとつとして、廊下やトイレ、浴室に手すりなどを設置し、転倒、転落を防ぐようにしている。		

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関フロアに提示されており入職時だけではなくミーティングでも確認している。フロアにも提示し常に目に付く所にある。日々理念に沿ってケアを行ないたいと思っているが、業務に追われて出来ていないこともある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域の行事（夏祭り、お楽しみ会など）にも参加させて頂いている。回覧板を通じ地域の情報を共有している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方々にはその都度説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度実地。入居者様の生活やどのような行事を行ったかなど報告している。また地域の情報を（お花見のオススメスポットや参加出来る行事など）を教えて頂き参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年2ヶ月に1回運営会議のお知らせを市役所の介護保険課に出している。必要に応じ事故報告書、利用者待機票も送らせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室のドアやフロアの入口、玄関の施錠は行っていない。ただし、夜間に措いては防犯上玄関の施錠はしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての言葉使いについて会議で確認しあったり現場で注意し合っている。身体的な虐待は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が把握しているとは言えない。またこれに関して学ぶ機会は作られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やその後の変更事項など発生時には電話や面談文書などで説明し納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況や入居状況など様々な相談をしている。また施設内での事故により受診した場合は報告書を提出し助言を仰いでいる。必要に応じて運営推進会議でも伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議やミーティングで現状把握に努めている。改善したいこと、課題などに対し徐々に取り組みを始めているところである。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前回外部評価より職員の体制はやや落ち着いたため、安定した状態、向上心を持てる取り組みをしたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はミーティングを利用し行うよう実践している。外部研修の案内をするが参加者が少ないため今後の課題として取り組みたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の勉強会に参加し、他事業者ともコミュニケーションをとるよう心掛けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人との面接の際、困っていること不安なことなど何うようにしている。言いやすい雰囲気作りにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接にて本人の前で話しにくい内容等は別室にて話を聞いたり後日電話にて連絡を取るなど出来る限り要望を聞ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面接を行ない本人と家族等が必要としている支援を見極め当施設として出来る事をお伝えし家族に協力して頂きたい事に関して説明を行っている。現在は他のサービスを利用している方はいない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に介助するのではなく毎日の生活の中で昔の歌や日常生活についてを教えてもらったりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を面会時やご様子シートを利用してお伝えし情報を共有している。お誕生日には家族を招いてお誕生日会を行ったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場と関係を持たせる支援として年賀状のやりとりを行っている。また、旧友などの訪問も歓迎している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様がお互いに手を握りながら声を掛け合ったり、レクリエーションを通して楽しまれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞いのお手紙を出したり退居後も入院先のお見舞いやお通夜に出席した事もある。退居後も物品の寄付をして下さる家族もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が出来る方は話を聞いたりと尋ねることで意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方は、本人の思いを表情や発言などから理解出来る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴の記録を読んだり、ご家族や本人から話を聞いてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個人記録、日常記録を活用し入居者様の現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り、月一度のミーティングにより入居者それぞれの課題を見出し、ケアプランに反映させている。作成後はモニタリングを行ない目標の達成度を確認し結果に基づいてプラン度を確認し結果に基づいてプランを変更していく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入し特記事項については、業務日誌の記録や申し送りを通じて職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調にあった介護用品の選択や専門職による機能、回復訓練など他事業者と連携し本人や家族の希望するサービスを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一度実施している運営推進会議にて、様々な地域の情報を得ることで、地域の行事への参加や啓発活動など円滑に行えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院に外来受診や訪問診療を受けている。受診前後にはご家族に連絡し、受診内容を報告している。協力医療機関以外は家族の対応にお任せしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや排便チェック等必要に応じて看護師報告し薬や受診の必要性など相談し早い対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人に面会に行き入居者様が安心できる様にしている。また早期に退院出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が看取りを希望された場合は看取りのケアプランを作成し、同意を頂いた上で医師 看護師 看護職員の連携を密にした看取りを実地しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	積極的に研修等に参加し実践の向上に努めている。定期的な訓練はまだ実施していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年二回行われている。その内1回は消防署の職員指導の下避難訓練を実施している。水と非常食の備蓄は切らさないようにしている。また正職員は自治体における防火管理責任者の講習を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声かけや排泄結果などを周囲に解からないよう気をつけている。小声で伝えたり、記録用の記号で伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を言葉に出来ない入居者様に対しておやつなど選択出来るように提供して選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の外出希望があれば付き添って出掛けている。欲しい物があるときはご本人と一緒にお店に行つて選んで頂けるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様本人に衣服を選んで頂き出来ない所は手伝っている。その日の気温に合わせて着脱の声かけをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは入居者様と一緒に出来ない仕事を分担して数人の入居者様に作業をお願いしている。食事も各入居者様に合わせた形態でお出ししている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様により体調が違う為、その時々状況により水分や食事量の確保を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口内洗浄と歯磨きをしている。食物残渣がないように口腔ケアは特に気を配り心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をして貰えるよう声かけし促がしている。下剤を服用している入居者様はタイミングを外さない様気を配っているが、タイミングが合わず便失禁してしまうこともある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様食物繊維や乳製品オリゴ糖等を毎日の食事やおやつに活用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定は組んでいるが体調等に合わせ最低週2日以上入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は各入居者様に合わせて休んで頂いている。夜間は豆電球を付けこまめに様子を確認している。疲れが見られる時は居室で休んで貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する前に日付や名前を他の職員と確認してから服用するようにしている。全て飲み終わるまで見守りをしている。処方された薬については禁忌食や副作用について確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみや食事作り等入居者様と一緒にしている。また毎日おやつの中にはお茶とお菓子を楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への買い物がある時は外気浴も兼ねて散歩や車で出掛け外出の機会を作っている。また誕生日や地域のイベントなど参加出来るものは職員と一緒に参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお金を所持している。他の方は預かり管理し、ご家族に用途の相談、報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の要望があれば応じる事は出来るが今現在そういった要望はない。年賀状は入居者様と共に作成し希望する方へお出ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間でより良く過せるように玄関には花壇、フローにはソファが置いてあり心地よい空間を提供出来るように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は大体決まっているがその時の状況に応じて好きな所に座って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだ品や寝具家族の写真飾ったり仏壇を置いたり本人が居心地よく過せるよう配慮している。掃除は週1～2回掃除日を設定し行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分や廊下等なるべく障害物を置かないようにしている。また入浴や髭剃りは出来る方には見守りしながら自分で行って貰っている。買い物や料理、掃除、食器洗い、ゴミ捨てを職員と共に行っている。		

目標達成計画

事業所名 どんぐり庵さんだ

作成日 平成29年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会行事への参加はしているが、施設活動に外部の人が参加することがない。	自治会や地域の人に施設活動に参加してもらう。	1回目はH29年12月実施予定の避難訓練に自治会の参加を促す。11月の運営推進会議で提案する。	H29年12月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。